

OHK 静岡県に手話実況ノウハウ提供 ジャパン・マウンテンバイク・カップ2023手話実況導入へ協力

報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区下石井二丁目10-12、以下OHK）は10月22日、「パラスポーツ推進コンソーシアム認証事業 デフリンピック2年前イベント」を主催する静岡県と連携し、同日行われる「FDAジャパン・マウンテンバイク・カップ2023」（以下FDAカップ）の手話実況において、手話実況者育成事業「OHK手話実況アカデミー」として協力します。

静岡県が日本サイクルセンター（静岡県伊豆市）で行われるFDAカップのレース中継映像に手話MCを試験導入するにあたり、OHKは30年培ってきた手話放送活動の知見や、OHK手話実況アカデミーのスポーツ実況ノウハウを提供します。開催を前に本日、オンラインにて静岡県担当者にレクチャーを行いました。



オンラインレクチャーの様子

当日の手話MCは、本アカデミー第一期生であり、昨秋日本初のモータースポーツ手話実況を行った早瀬憲太郎氏が行います。ろう者で、自身もデフ自転車競技選手である早瀬氏による手話実況が挿入される中継映像は、当日会場のビジョンカーで表示されるとともに、Youtubeで配信される予定です。配信URL：https://www.youtube.com/watch?v=yU6zJY_kgu8



早瀬憲太郎さん（写真左）のモータースポーツ手話実況の様子

OHK手話実況アカデミーは、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金（東京都文京区、理事長：豊田章男）が企画した2022年アイデアコンテスト「Make a Move PROJECT」から誕生したものです。多様な人がレース観戦を楽しむためのアイデアとして、日本初となるモータースポーツの手話実況を中心にさまざまな実証実験を行い、この実績をもとに今年6月、新たに「OHK手話実況アカデミー」を立ち上げ、同基金の助成を受けながら約3ヶ月にわたって第一期生約10名に対し手話実況研修を提供しました。本レースは研修終了後、初めての実践の場でもあり、2025年に日本で初めて開催されるろう者のオリンピック「デフリンピック」に向け、今後も様々なスポーツ実況に対応できる人材育成を目指し、学びと実践を重ねていく予定です。

OHKはこの活動をきっかけに、障がいの有無にかかわらず誰もがスポーツ観戦にアクセスできる環境を創出し、「情報から誰一人取り残されない社会」の実現を目指してまいります。